

1. 2月の目標

- 1)今学期の授業と留学生活のまとめ
- 2)フォーミュラSAEチームの活動への参加
- 3)ELC及びその他の活動への参加

2. 2月の活動

2.1 今学期の授業と留学生活のまとめ

今月で9ヶ月間の交換留学が終了した。また今月は冬学期の最後の月でもあり、各教科の期末試験も実施された。本報告では、今学期の授業成績及びGPA、Michigan Testの結果について報告する。

表1 冬学期の授業成績及びGPA

Name: IMAI, SHINGO

QUARTER: Winter (20092)

DATE: February 24, 2010

COURSE	HOURS	FINAL GRADE
170103501 READING IN SCIENCE & TECH	3	C
170108001 ADV II READING	4	D
170108101 ADV II WRITING	4	C
170108201 ADV II CONVERSATION	2	D
170108301 ADV II GRAMMAR	3	D
170108401 ADV II VOCABULARY	2	D
170109401 PRESENTATION SKILLS	3	B

Total Hours: 21
 Quality Points: 34
 ELC Grade Point Average: 1.62

表1に冬学期の授業成績とGPAを示す。1月末に体調を崩してから生活リズムの調整ができず、2月前半は朝方まで課題をやっては授業の開始時間に起きることができずに、授業を欠席する日が続いた。英語の勉強に対するモチベーションの低下も著しく、これも授業欠席の原因のひとつである。最終試験の結果は、各教科とも悪くはなかったが、課題の未提出が成績に大きく響いたと考えられる。

表2 4回の試験結果

	夏学期始め	夏学期終り	秋学期終り	冬学期終り
Michigan Test	44	52	51	60
Oral Interview	24	43	53	-
Writing	E3	E5	E5	E5

表2に9ヶ月間に実施した4回のMichigan Testとその他の試験結果を示すMichigan Testの点数は、過去4回中最も良い結果となった。今学期の文法と語彙の強化が、結果に繋がったと考えられる。またReadingの授業中に長文を読む練習を続けてきたことで、回答時間が短くなったことも結果が良くなった要因であると考えられる。しかし、ELCを卒業するための80点にはまだまだ遠く、更なる勉強が必要である。

Oral Interviewについては、秋学期末の試験で基準である50点を超えたため、今回は受け

なかった。Writing は夏学期末の試験から点数は変わっていない。秋学期及び冬学期の Writing の授業から、5 段落のエッセイの書き方を練習したため内容は良くなっていると考えられるが、点数が変わらないのは文法に間違いがあるためだそう。こちらも更なる勉強が必要である。

2.2 フォーミュラ SAE チームの活動への参加

今月も 3 月 1 日の新車両シェイクダウンに向けて、車両の製作が進められた。引き続き車両部品の製作を通じて、様々な技術や思想を学んだ。

製作が終わっていた排気管と燃料タンクが、いつの間にかセラミックコーティングをされて白色になっていた。排気管に関しては防錆のための塗装の代わりとして、また遮熱や排気管の熱割れなどを防ぐ目的があると考えられる。学生フォーミュラ車両はヨー慣性モーメントを小さくするために、エンジンとドライバーを車両の中心に出来る限り近づけてレイアウトする 경우가多く、燃料タンクはエンジンとドライバーの間にレイアウトされることが多い。特に RIT の最新車両は、排気管と燃料タンクの間が最も小さいところで 15mm ほどと非常に近くレイアウトされている。従って、特に遮熱のためのコーティングと考えられる。

RIT の歴代車両は、3 ピースホイールを使用してきた。リムは市販品を購入後加工し、ディッシュ部を自作して組み合わせている。ディッシュ部のデザインは度々変わるようで、様々なデザインのディッシュがガレージに展示されている。今年のデザインは今年の車両と同じものであった。NC フライス盤で加工されエンドミルの切削跡が残っているディッシュを、サンドペーパーで磨く作業を行った。ディッシュは 7000 系アルミニウム合金で軽いですが、スポークの本数が多いために研磨の作業は長時間を要した。このホイールは、KIT で 08 年度から使用しているオリジナルマグネシウム鍛造ホイールと比べて約 200g の重量差で、コストは半分以下であるため、少し悔しい結果であった。

RIT では、車両の部品を全て 2 台分製作している。フロントサスペンションのプルロッドを製作した際に、普通であれば 2 本で良いはずが、なぜか図面には 4 本と書かれていた。疑問に思い質問したところ、過去の大会で周回路を他チームの車両と混走している際に他の車両がコントロールを失って RIT の車両と接触し、車両が破損する事故があったそう。それ以来、車両修復を素早く行えるように、部品を 2 台分製作しているようである。日本大会では未だ生じたことのない事故が、アメリカ大会では起こるようである。

日本への出発日の前日にガレージに行き、彼らと別れを惜しんだ。基本的には技術や情報を学ぶ立場になってしまっただが、非常に良い経験ができた。図 1 にお世話になった RIT Racing のメンバーと製作中の最新車両を示す。



図 1 RIT Racing のメンバーと最新車両

2.3 ELC 及びその他の活動への参加

2.3.1 スーパーボウルパーティ

7日(日)にアメリカンフットボールの決勝戦, スーパーボウルが行われた。RIT では体育館を開放し, 観覧席と大きなスクリーン, そしてピザを用意して, 観戦パーティが開かれた。ELC の学生と先生と共に, 試合を観戦した。試合は Indianapolis Colts と New Orleans Saints が対戦し, Saints が 17-31 で逆転勝利した。RIT の会場内には Saints ファンの方が多かったようで, 試合終了時には非常に盛り上がった。図 2, 3 にスーパーボウルパーティの様子を示す。



図2 スーパーボウルパーティの様子



図3 スーパーボウルパーティの様子

2.3.2 Japanese Conversation Table

18日(木)に, 今学期最後の JCT に参加した。名前は JCT だが, 会話は半分以上英語で話しているため, 日本人留学生にとってはアメリカ人と英語で話す良い機会となっていた。今年の夏に KIT に留学する学生とも交流でき, KIT で会うのが楽しみとなった。図 4 に JCT のメンバーを示す。

2.3.3 ELC Cerebration Party

25日(木)に毎学期恒例となっている, ELC のパーティが開催された。前学期までは学外のレストランで開催されていたが, 今回は学内の改装されたばかりの建物での開催となった。今回の会食はロチェスターで人気のある Dinosaur BBQ が大学に出張し, 名物のステーキなどが振舞われた。パーティでは学生が授業で作ったドラマの上映や実演, 各国国歌の披露が行われた。また, 今学期で ELC を去る学生が多く, 記念撮影をする様子が多かった。図 5 にお世話になった ELC のディレクター Jo との写真を示す。



図4 JCT のメンバー



図5 ELC のディレクター Jo

3. 最後に

9 ヶ月間の留学で、非常に多くのことを学ぶことが出来た。アメリカに到着した当初はほぼ理解できなかった ELC の先生の話も、9 ヶ月後には全て理解できるようになった。留学前の予想よりも、会話能力は向上した。しかし RIT の専攻の講義では先生と学生の話は半分も理解できず、アメリカ人と普通に話すにはもう 1 年間ほど必要ではないかと感じた。

到着した空港での荷物紛失、ほぼ誰もいない学内、インターネットも繋がらない環境から始まったアメリカでの生活も 9 ヶ月の間にすっかり慣れ、多少の問題が起きても抵抗なく受け入れることができるようになった。文化の違いは様々な場所で感じたが、それを素直に受け入れたことで 9 ヶ月間、非常に楽しんで留学生活が送れたのではないかと思う。

スポーツや音楽に言葉は要らない。このような話を良く聞かすが、これらは特に実感できた。学内外でジムやスケートリンク、屋外の運動施設を良く利用したが、サッカー、スケート、テニス、バレーボールなど、どのようなスポーツでも初めて会った人と同じことができ、仲間ができ、会話が生まれる。音楽の場合もピアノを少し弾けたおかげで、言葉が通じなくてもコミュニケーションが取れ、同じ時間を共有できる。私の場合は ELC の授業で英語を話す時間よりも、授業以外で話す時間の方が長く、会話能力の向上に大きく寄与した。

休業期間には多くの都市、及び友人宅を訪れ、多くの見識を得ることができた。特に日本の家庭との住居、生活様式、食事などで違いを理解することができた。黒人の友人の祖父母と話をする機会があったが、アメリカ南部の出身の方々で同じ英語なのかと思うほど発音が違い、大方聞き取ることができなかったことには驚いた。サンクスギビングとクリスマスの大きなイベントを友人宅で過ごすことができたことも、非常に良い経験となった。

留学前は、将来の仕事は日本国内のみでしか考えられなかったが、現在は国外に意識が向くようになった。日本語を勉強している多くのアメリカ人の友人が、専攻に関係なく日本での仕事を求めていることにも影響を受けた。留学によってアメリカと日本、それぞれの国、文化の良いところが理解でき、まずは修士課程 2 年間に良い影響が出るのではないかと思う。9 ヶ月間の留学経験は、今後の活動や思想に大きく関わると考えられる。

貴重な留学の機会を頂いた金沢工業大学、留学前の研修中に長い時間ご指導下さった Casey Bean 先生、留学前研修から留学後に至るまでずっと支えて頂いた札幌野原室長をはじめとする国際交流室の宮本香代様及び小森早苗様、佐藤恵一教務部長、遠いところロチェスター工科大学まで視察に来て頂き、様々な情報及び助言を頂いた先生方、留学を快く了承して頂き厚いご指導を頂いた山部昌教授、そして留学に賛同頂き全面的に支援して頂いた家族に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

以上